

野崎八幡社薬師殿団子まき

1 団子まきとは？

毎年10月8日、野崎の氏神である野崎八幡社の境内に祀られている「薬師殿」の祭祀のひとつとして行われる、団子を撒く行事です。

早朝から地区の役員や女性たちによって約7千個の団子がつくられ、夜9時ちょうどに八幡社社務所からいっせいに団子が撒かれ、神社に集まった人々はそれを拾い集めます。

この団子を食べると主に眼病に効果があると伝承されています。この行事は、いつから行われているかは明確に確認できませんが、第二次大戦中も絶えることなく行われてきたと伝承されています。

関東や東日本では、「餅」まきの風習が広く行われていますが、「団子」まきの風習自体が珍しい存在です。薬師如来への信仰は、少なくとも江戸時代後期に遡ることが古文書から確認することができます。

この行事は、地域に残る貴重な無形文化財として、平成25年度に三鷹市無形民俗文化財に登録されました。

